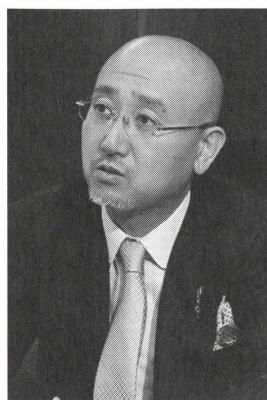


久野康成の 「私なら、こうする!」 非常識な実践経営アドバイス

第68回



Question

英語力が中級レベルから向上しません。上級レベルに到達するための良い方法はありますか?

(名古屋市 38歳)

Answer その3

自分に合った方法論を見つければ成績は伸びる

英語の習得は、誰にとつても時間がかかるものです。しかしこの道のりも耐えることができません。方法論が見つからなければ、モチベーションを維持する

ことはできません。どんなに英語を勉強しても成績が伸び悩む時期があります。継続できるか否かが上級者になれるかどうかの鍵になります。

英語の難しさのひとつは、自分に合った方法論を見つけることです。

ときがありました。そこで、受験学校で最も成績の良かつた先輩に教えを乞いました。その方法論とは①基礎問題の繰り返し②応用問題を数多くこなす③応用問題で誤った個所をノートに書き写し、2度と誤らないように繰り返すというものです。

基礎問題の繰り返しは、何も考えずに反射的に体が動くまでこの方法を1年かけて実践しました。受験2年目は7教科のうち、大半の時間を簿記に費やしました。その結果、実力は飛躍的に伸びその後に合格できました。当然かも知れませんが、この年は大半の時間を簿記の勉強に費やしたため合格でき

後のノートへの書き写しと反復は、応用から基礎へのフィードバックであり、基礎を体系化し、さらに深く理解するための方法です。

この方法を1年かけて実践しました。受験2年目は7教科のうち、大半の時間を簿記に費やしました。その結果、実力は飛躍的に伸びその後に合格できました。当然かも知れませんが、この年は大半の時間を簿記の勉強に費やしたため合格でき

ませんでした。私にとつてのリスクは、その年に合格できないことではなく、一生合格できないことでした。最も苦手な科目が最も得意な科目に変われば、合格できないリスクはなくなります。合格まで人より時間がかかりましたが、方法論の完成度が高かつたため、時間とともに実力が比例して伸びたのです。

この方法論を英語に応用したとき、繰り返すべき基礎の定義が非常に難しい。簿記の勉強では60題の総合問題を基礎と定義し、反復練習を重ねました。基礎のポイントは、反復にあります。そのためには、範囲の限定が必要です。完璧を目指そうとする手を広げたくなりますが、その誘惑を断ち切って範囲を限定することが重要です。

佐藤優氏や竹中平蔵氏を参考に方法論を構築

佐藤優氏は、ある大学教授から、英語の基本は文法と語彙だと言われ、それを極めると書か

れていました。私は中級から上級になるための文法は、文法の理解だけではなく、例文の暗記だと思います。私が文法の理解および例文暗記に選んだのは、「極めろ!リーディング解答力TOEICTESTパート5&6」(スリーエーネットワーク)です。例文がビジネス向きであることが特徴です。例文の暗記は、スピーキングとライティングの能力アップにも役立ちます。

語彙に関しては、「究極の英単語Vol.1」(アルク)を使っていました。この特徴は、1万2千語が網羅されていることです。もう1冊は、『発信型英語10000語レベル スーパーポキヤブリービルディング』(ベレ出版)です。ジャンル別に分類されるところが特徴です。これらの本を英語の基礎と位置付け、反復練習をしています。語彙の暗記のためには単語カードに書き写し、辞書で、同義語・類語・反意

語・語源・用例なども加えて体系化を図っています。反復すべき基礎が膨大ですが、やり抜く覚悟をしました。

次に、応用に関しては、英文の経済誌、経営書を読むようにしています。経済誌に閲しては、毎週『エコノミスト』を通読し、知らない語彙は、ノートに書き写して暗記するようにしています。経営書はドラッカーなどを

愛読しています。また、自分の専門分野は、英語で学ぶことが重要だと思います。このノートに

書き写し、しらみ潰しに暗記する方法は、竹中平蔵氏が著書『マトリックス勉強法』(幻冬舎)の中でも書かれています。英字新聞を読む時、「知らない單語は辞書を引かずに前後関係から類推すれ

ばよい」と提唱する人もいますが、本気で上級を目指すのであれば、竹中氏の方法は非の打ちどころがありません。エコノミストは、定期購読すれば、ホームページから無料で音声のダウンロードができます。これを聞きながら読めばリスニング能力も同時に高めることができます。

また、BBC、CNNを理解するのにも役立ちます。

「学問に王道なし」ですが、自分に合った方法論は必須です。

(このコーナーでは、経営に関する相談を読者の皆様から受け付け、実践的アドバイスとしてお答えしております)

[プロフィール]
久野康成(くの・やすなり)
公認会計士。人財開発・東京コンサルティングファーム会長兼CEO。東京税理士法人統括代表社員。1965年生まれ。愛知県出身。滋賀大学経済学部を卒業後、青山監査法人(プライス ウォーターハウス)入所。監査部門・中堅企業経営支援部門にて、主に株式公開コンサルティング事業に携わる。98年久野康成公認会計士事務所を設立。東京のほか、横浜、名古屋、大阪、インドにて「第2の会計事務所として会社を設立。経理部門へのスタッフ派遣・紹介など幅広い事業を展開し、グループ社員総数は360人に上る。著書に『できる若者は3年で辞める!』『2008年版 図解インドの投資・会計・税務の基本』『母性の経営—management therapy』(共に出版文化社)がある。